

浜松文芸館だより

No.73

公益財団法人 浜松市文化振興財団

発行 浜松文芸館(文責:鈴木)

令和4年 盛夏

い ざ な い

【特別収蔵展】 浜松を愛した望郷詩人

『森の水車 清水みのる展』 開催中

7月1日から特別収蔵展「浜松を愛した望郷詩人 『森の水車 清水みのる展』」が始まりました。浜名郡伊佐見村(現浜松市西区伊左地町)に生まれ育ったみのるは、52歳の時のこんな言葉を残しています。

『春霞は真昼の湖 夕風の夏の湖 靄(もや)立つ秋の朝の湖 粉雪降る夜の湖
僕は湖郷、浜名湖の畔で生まれ、育ったことをどんなに幸福に思っているか知れない。』
みのるは浜名湖を湖郷と呼んでいます。浜名湖がみのるの故郷(湖郷)だったのです。

名曲「森の水車」はみのるの生家の近くを流れ、浜名湖に注ぐ伊左地川の水車をイメージした曲といわれています。「森の水車」は戦後、小学校の音楽の教科書にも採用され、現在も子どもたちを中心に広く、たくさんの人に歌い継がれています。



「森の水車」は戦前、米山正夫が曲を作り、大東亜レコードに持ち込んだ曲です。当時、清水みのるは作曲家の米山正夫と歌手の高峰秀子とのコンビで曲を手掛けていました。この曲を聴いたみのるは故郷伊左地川にあるたくさんの水車と人気絶頂の少女高峰秀子をイメージし、清涼感溢れ、叙情豊かな春を待つ少女のほのぼのとした気持ちを詩に書き上げました。しかし、少女が夢見るような歌は殺伐とした当時の時勢に合わず軟弱と指摘され、検閲から「コトコトコットン 仕事に励みましょう」の部分を「コトコトコットン 仕事に励みなさい」と勤労の歌に書き換えられました。戦争が終わり、平和な世となった昭和25年にNHKラジオ歌謡に「森の水車」が取り上げられ、荒井恵子が歌った歌詞は「コトコトコットン 仕事に励みましょう」に戻っていました。



伊左地町にある森の水車公園を訪れ、水車小屋の前に立ってみると、コトコトコットンという音が本当にほんわかして聞こえてきて、つい口ずさんでしまいます。清水みのるの故郷に対する原風景がここにあったのだなとつくづく感じます。皆さんも一度、森の水車公園を訪れてみて、コトコトコットンと口ずさみ清水みのるの気分に浸ってみてはどうでしょうか。

浜松市民文芸 第67集 販売中一冊¥500

*お求めは浜松文芸館事務室まで



家康公ゆかりの地